

再起せよ日本人



金美齡 (評論家)

昨年の八月十五日、靖國神社外苑で開催された戦歿者追悼中央国民集会に提言者として出席した。平成八年と平成十七年に続いて三回目、外国人としては一番多く登壇させて戴き光栄なことである。平成十七年終戦六十一年の年はとりわけ猛暑であったが、大勢の参拝者が長時間に亘り我々の提言に耳を傾けていた。この時の私の提言は現在でもYouTubeで配信されていて、アクセス回数が二十万八千回を超え靖國神社に対する関心の高さを窺わせる。

毎回、国民集会の冒頭に申し上げるのは、要するに靖國神社にお参りするとかしないとか、お参りする人もお参りしない人も様々な言いわけをする。私はおかしいと思う、単純な話なのだ。お国のために命を捧げた方に敬意を表するというのが基本的なこと、それだけのことはいいことではないか。言いわけがましいことは一切要らないのだ。

さらに日本人で、靖國神社にお参りをしないと、社にはいけないとか、あそこはどうとか、こうとかと、こぼれ出す人はいくらもいる。そういう人は恩知らずだと思ってしまう。繁栄を享受する資格はない。今の自分の恵まれた生活があるのは、靖國の神々や数多の先人達の礎の上に成り立っているのだということ。これを考えなければいけない。

靖國神社というのには神聖不可侵の聖域。多くの日本人にとっては大切な心の寄りどころである。そこへ来て無礼なことを言うのだから出て行けと強く言いた

台湾の国会議員に高金素梅というのがある。再三靖國神社に来ては不敬なことをやっている。昨年八月、彼女はその聖地で戦歿台湾人の合祀を不当として、シユプレヒコールをあげた無礼者。許されざる暴挙におよび、阻止しようとした靖國神社の神職と衛士が暴行を受けて複数の怪我人が出た。ところが警察は傷害罪で逮捕もせず、彼女等を見逃した。相手が外国人でも、高金素梅は二度と日本に入

例えれば日本で韓流ドラマが流行っているけれども、日本のメディアは視聴率が上がるようにうまく乗せている。ところが、台湾が幾ら宣伝しても中国に気兼ねして日本のメディアは取り上げない。これが日本の一番情けないところ。靖國神社に同じようなスタンスを取る。何かお参りすることが憚られるような雰囲気をつくりあげる。

(哈日族)、彼らは主に日本のサブカルチャーが好きで、アニメや歌、ファッションや文学に至るまで幅広く好感を持っている。入り口は誰でもいいから好きだということ、民間レベルで相互に繋がって交流を深めていくことが重要である。

世界を見渡せば台湾やトルコのような親日国だけではなく、日本に好感を持っている人は大勢いる。韓国でさえ日本が好きなのは、日本人が好きな人はいくらでも。日本が好きだと言うとバッシングを受けるから言わないだけの話。

一方、自国に自信が持てない或いは好きになれない日本人が多いのは、戦後レジウムから脱却できないのが最大の原因。いつまでたっても目が覚めない国民があまりにも多すぎる。

で、そういう人はほとんど掘られていく。それが普通の人のメンタリティーである。特に外交では言いなりになる。向こうが攻め込んでくるのが世界の常識。あうんの呼吸で、「今日は貴方が譲ってくれたから、明日は私が譲りますよ」といった日本式の感性は通じない。こちらが低姿勢でいけば、外国人は幾らでも自分の言い分を通してくる。日本人にはそれがわかっていない。国際間で問題が起こっても、日本は譲ってしまおうことが多く争うことを躊躇する。イ

も台湾が中国の一部になっただけで、台湾海峡というのには中国の内海になっただけで、当然、日本はシーレーンを脅かされる。資源のない日本のような海洋国家にとって、海上交通路の確保は国の安全保障上の最重要課題である。しかも台湾が中国の基地になっただけで、次は沖縄が危ない。すでに沖縄には中国資本が流入するなど、じわり・じわりと侵食されているという、気が付いた時には抜き差しならない状態になる可能性大である。このじわり・じわりが、一番危険だと私は思っている。

靖國神社の遊就館を初めて拝観した際、ちょうど花嫁人形を展示しているときだった。その展示を見たときの感慨は今でも忘れられない。亡くなった息子さんや御兄弟のために花嫁人形を奉納して嫁がせるといふ思い、遺族の切ない気持ちや伝わってくる。こうした若い命を捧げた人たちに對して、これっぽっちも哀惜の念がないとしたら、日本人としてだけではないと思う。許されないと思う。今の人は国から何かをしてもうことばかり考えている。

そして日本人は、自分たちが持っている五つ星のパスポートのありがたみを十分認識すべきだ。ビザなしで渡航できる国のパスポートは世界的に見ても少数である。それは日本が国際的に認められている証拠である。日本はすぐれた技術力を持ち、裕福で恵まれた先進国であるが、もし日本国籍でいることの幸せがわからず、不幸と嘆くのであれば日本人をやめることだ。国のために戦うこともせず、無関心で、国を蔑ろにし、被害者意識のみ募らせる怠惰な国民であるならば、即刻、日本国籍を返上し自分の望む国に移住すればよい。日本人が自国のパスポートのありがたみが分かるようになれば、この国の将来にも新たな希望が見えてくると思う。なぜなら、そのありがたみが分からない人には、「国家」というものが、分からなからである。「国家意識」なき民族が衰退の道をたどるのは必定である。

※本文は、編集部が金美齡氏に面接取材した要約である。